

商環境施設を中心にデザイン設計に携わり

数多のデザイン賞を受賞し続ける



21世紀に駆けるトップ

長尾勝彦+デザインオフィス 代表

長尾 勝彦氏

(高松市観光町553-4-607)

続けることのほうが難しい」という教えを頂いたことが、自分自身の成長に繋がっていたのかもしれない」と、当手を振り返る。

たいへん気さくな人柄であり、冗談を交えながら話をする姿は、支部長という肩書きを忘れさせられるほど。

しかし、デザイン設計に対する情熱は何者にも負けない信念を持ち合わせ、他者にはない不思議なオーラを纏った創造者でもある。

業界の現状を伺ったところ「パソコンなどのシステムが普及したことにより、若い世代の方がそれに頼ってしまいがち。デザイナーとしてのプライドを持ち、道具に頼らず人の感性でしか生み出せないものを創造すべき」と燃える胸中を明かす。

「デザイナーを選ぶのはお客様自身。その期待に応えられるよう、気張らず、自然体で努めていければ」と、その心に迷いはない。

便利に頼らず、己の腕と感性で新たなデザイン空間を創り上げようとする姿勢は、まさに「職人」そのもの。歩んできた軌跡は、多くのデザイナーと人との出会いによって築き上げられている。今後も止まることのない氏の活躍に注目を寄せたい。

個人宅から商業施設と幅広い分野を手掛ける商環境デザイナー。業界に入門して以来、800件以上の建物を担当し、50件近くのデザイン賞を受賞。空間デザインを通じて、多くの人に驚きと感動を与えてきた。

一方で、商業環境の質的充実と生活文化の発展に寄与することを目的とする（社）日本商環境デザ

イン協会（JCD）の四国支部長も務めるなど、業界全体の成長を願う。始まりは、寒川商業建築研究所にて12年間勤務。その間、自身のデザイナーとしての感性やノウハウを研磨し、更なる高みを目指すため93年に独立。

独立後は、大型商業施設から独立型の店舗・専門店などの商環境施設を中心に、デザイン設計を受け持ち、

毎年のようにデザイン賞を継続的に受賞していく。その活躍は四国内に留まらず、首都圏にまで赴き、『時代を映し出す空間』の創作に携わる。近年では高齢化という時流の中、医療機関、デイサービス、葬儀業界からの依頼も少なくない。

「恩師・亡き寒川登氏から、『大きな賞を取るよりも、毎年入選を取り